
馬鹿な話

ムネソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿な話

【Nコード】

N1665R

【作者名】

ムネソラ

【あらすじ】

ある男が妄想する、くだらないSF物語。

（前書き）

馬鹿な人間の妄想の中で起こる、非常に馬鹿な話です。
時間を無駄にしたい方だけ、ご覧ください。

例えばこんな自分を想像してみた。

朝、仕事にいとこと玄関を出たときのことである。僕はその場でジャンプする。そうするとその瞬間にスピードはマッハ5を記録し僕は全くの時間を要さないうちに宇宙に出たりするのだ。

その後僕は、格好のいいポーズを決め大気圏に再突入する。

それまた猛烈なスピードをたたき出し、隕石のように炎をまわって僕は大空を貫くのである。海外でNASAが正体不明の落下物に慌てふためく中、僕は見事に着陸を果たすと、涼しい顔で職場に通勤するのだ。

実にダイナミックかつ、らくちんな通勤方法ではないか。

……しかしダメか。それではたとえ自分の体が耐えられても、来ている服が炎に焼かれ、職場に着いた頃には素っ裸になってしまう。さすがにそれではたとえ国が許しても、パーフェクトボディを持っていてであろう僕への世界中の男どもの嫉妬が許さない。

いやまて……、僕は皮膚の上5センチメートル上にバリアーが出せるのだ。

これならば服は焼けず、川のせせらぎのような涼しげなスマイルで職場を練り歩けるといふものだ。

……分からない人のために、一応今までのことをまとめてみよう、つまりとこる僕は、実は超人的な力が使えるということを妄想しているのだ。

そんな自分は目からビームも出せれば、薬指一本で惑星に壊滅的なダメージだつて与えられるのである。

そんな僕がある日、ある事件に遭遇するのだ。世界滅亡の危機である。

それは何気ない日常の喧噪の中、何の変哲も無い公園の、園児がおもちのクワを握って遊んでいる砂場から起こった。

園児がありつたけの力を込めてクワを砂場に突き刺したまさにそのときである。

砂場から銀河系をまとめているエネルギーが光とともに溢れ出し、この僕らの暮らしている時空がバリバリと碎け、崩れだしたのである。

その事態を、ことが起こる23、3秒前に気がついていていた僕は光よりも早い速度で地球を飛び出し、木星に到着すると大赤斑にもまれ、目を回して地球に帰ってきたが、そのときには既に0、2秒遅かった。

油断だった。

地上に到着する寸前、隣に住むサキちゃんの入浴現場を覗いてしまったのがいけなかったのだらう。そこで約20、1秒をロスしてしまった。

時空の崩壊は瞬く間に進み、僕がその砂場に付いた頃には遠くアンドロメダ星雲までその影響は広がっていた。

もはやそこは砂場ではなく、あらゆる宇宙とネットワークを配した超情報体の核のなっていたのである。

そこには時間という概念が無く、人が解明したあらゆる物理学も通用しない究極ともいえる場所になっていた。……いや、場所という概念すら正しいかどいいうかはあやしい。

同じ究極の存在である僕ですら、その場に存在することがやっとなのである。

残念ながら僕らの住む天の川銀河はもう崩壊してしまったようだった。飲み込まれたといった方が正しいだらうか……。僕はそのことに悲しみ、ほほに一筋の涙を流した。だが、悲しんでいる暇すら今の僕には残されていないかったのである。

このままではあと0、23秒後には宇宙全体が飲み込まれてしまうのである。

迷うことはしなかった。僕は最後の力を降り縛る。

その瞬間に僕の体は強烈な閃光を放ち、その閃光はこの場をすべ

て満たしていく。僕は自分の生命を燃やし、この命をかけて全宇宙を救おうとしたのである。

宇宙の崩壊は止まった。やがて徐々に縮小も見て取れるようになった。

「これで宇宙は救われる……」 そう思ったときである。

崩壊はまた拡大を始めたのだ。

僕の力でも、崩壊を止めることができなかったのである。

自分の無力さに嘆く。そうなるともういかなる存在すらもこの破壊を止めることなどできない。僕は消え行く自らの命の中、全宇宙の崩壊を見届けることしかできないのか。

だがそのときだった。

超情報体の核から揺らぎを感じたのだ。

それは鼓動だった。子供の心臓の鼓動……。

これは……、あの砂場にいた園児の鼓動だ。

僕の放った閃光の力に反応し、超情報体の核に最初に吸収された園児の体が蘇ったのである。

それはまさに奇跡だった。

核にできた揺らぎは、瞬く間に全体に広がっていく。そう、超情報体は内側から分解を始めたのだ。全宇宙を飲み込もうとしていた活動もやがて静止し、すべて砂のように散り散りとなっていった。

飲み込まれていた世界も姿を現し、元通りの位置へと収まっていた。

……しかし妙な現象が起こりだした。

散り散りとなった超情報体の破片が一カ所に集まっていくのだ。

元は核があった場所である。そして今そこにはあの園児の体があった。

破片はその園児の体へと次々吸収されていく。

そしてすべての破片がその小さな体の中に収まると、不意に第二の宇宙が生まれるかのような大爆発が起こったのだ。

寸線のところで気がつき僕がシールドで囲っていなければ、三分

の一の銀河が崩壊していただろう。

やがて爆風に巻き上げられた砂埃が薄れ始める。何が起きたのか分からない僕はその中心にあるものをまじまじと見つめた。

そこにいたのはあの園児ではなかった。

全くの姿を変え、毒々しいほどの不気味なオーラをまとった一人の男だった。

そいつは僕を一瞥すると、にやりと笑い。その瞬間に宇宙の彼方へと飛び立ってしまった。

そのときの僕はまだ知らなかった。

その後、72億年の永きにわたり、そいつと壮絶な激闘をすることになるなんて……なんて、全く……僕は長々と、なんて馬鹿な妄想をしているのだろうか……。

(後書き)

長編を書くのに煮詰まり、あげくの果てにこんなものを書いてしまいました……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1665r/>

馬鹿な話

2011年2月24日16時55分発行